

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ

『サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の促進—環境・観光・子育て教育・定住を統合した取り組み』

活動団体の活動地域：北海道豊富町

活動団体名：豊富町観光協会

中間支援主体名：北海学園大学

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	豊富町観光協会
活動地域	北海道豊富町
専門性・強み	
豊富温泉、湯治、サロベツ湿原、酪農地帯、涼夏	

団体概要
豊富町観光協会は、豊富町を中心とする地域の観光宣伝及び観光客誘致促進等に努めることにより、観光産業の健全な発展を図り、併せて地域の産業経済の発展に寄与することを目的として活動している。 主な観光地は、利尻礼文サロベツ国立公園に指定されたサロベツ湿原、源泉に油分を含みアトピーに効能がある豊富温泉、壮大な牧草地帯が広がる大規模草地などである。2024年に「ヘルスツーリズム認証」を取得したことにより、健康増進を推進する道内の企業が、福利厚生などとして豊富町や豊富温泉を利用しやすくなるように取り組みを進めている。

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	北海学園大学
活動地域	札幌市
専門性・強み	
総合大学、北海道最大規模の私立大学、地域貢献	

団体概要
北海学園大学は、5学部、6研究科に約8,500名の学生・大学院生が在籍する総合大学である。 開発研究所は、経済・経営・法学・人文・工学の各学部教員130名以上と学外の研究者が参加し、北海道における地域開発研究の中心として「地域に貢献するシンクタンクの機能」、「開発資料センターとしての機能」、「国際的共同研究機能」を果たすことを目指している。また、地域連携推進機構は、いかに持続可能な地域と自治体を創造していくか、地域課題解決のため「地域と大学のマッチング」に取り組んでいる。

活動団体と地域の紹介



活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

ありたい地域の姿は、子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくことである。地域課題を克服する視点は、①**観光産業の拡大と閑散期の解消**によって雇用の創出、地域資源を活かした地域経済循環の強靱化、②**コミュニティでの対話の場づくり**、③**教育や子育て**において外部からの刺激により、子どもたちの地元愛を育む、である。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

町内には、本事業に関わる観光や教育子育ての分野において、事業者やNPOなどの「点」は20～40程度存在している。**とよとみワクワクの会のイベント開催**を通じて、これらの「点」を「面」に広げていく。将来的には地域おこし協力隊制度等を活用し、活動団体内部（または外部）に**コーディネーター**を設けることを目指す。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

本事業のイベントやワークショップ等での議論から生み出されていくものである。活動団体が実現したい事業は、豊富町との関わりを深めてもらい、また、住民にとっても持続可能な地域づくりにつながる、**地域活動への参画や交流等を行うプログラムの企画運営**である。。

■ 地域の現状と課題

豊富町は、急速に進展する少子高齢化や地域の人口減少、経済の縮小という過疎問題に直面し、地域課題の解決に向けて地域産業の創出と維持発展が欠かせない。主要産業の観光業は**通過型観光**であり、宿泊者数の増加、冬期の閑散期の解消が課題である。

その打開策が、地域資源を活かした**ワーケーションや湯治といった滞在型観光**の潜在的な掘り起こしである。地域資源には、アトピーに効能があるとされる豊富温泉や雄大なサロベツ湿原などの自然資源、様々な分野で活躍しているヒトや団体があり、地域循環共生圏の素地は十分に有している。

現時点のマンダラ

ありたい未来

子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくこと

成果

住民と大学生の交流・対話 / 地域の課題や魅力を共有 / アイデア事業化

取組

「ワクワクとよとみ未来会議」の開催 / 大学生「地域インターンシップ」

地域課題

少子高齢化と人口減少
中学・高校卒業後に離郷者が多く
戻らない
魅力がある職が少ない
通過型観光（滞在型観光の増加）

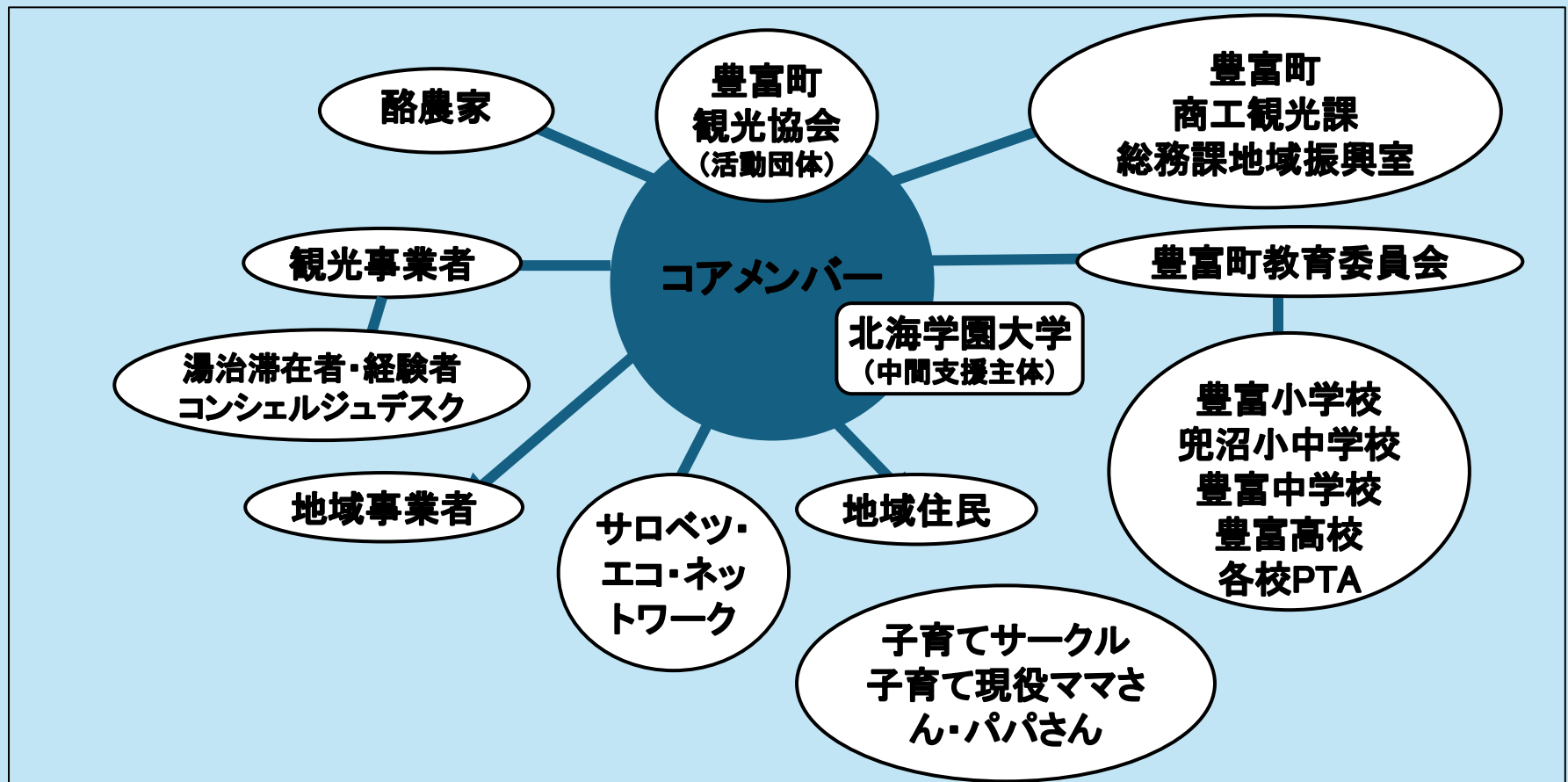
地域資源

豊富温泉（アトピー湯治治療）
サロベツ湿原、壮観な景勝地（大
規模草地、利尻富士）
酪農、乳製品の六次産業化（バ
ター、ジェラート、スコーン）
多方面の活躍するヒト

“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制

- 地域プラットフォームには、豊富温泉やサロベツ湿原などの観光事業者、飲食業や酪農業などの地域事業者、小中高校の教育関係者、子育てサークル、役場の担当者などが参加している。
- 参加者の大半は30～40歳代であり、現役の子育て者が多い。また、男女比がほぼ均等である。
- 中間支援主体には、北海学園大学の教員と大学生が参加している。



ローカルSDGs 事業の詳細

事業名称：サステナブルツーリズムの実現		
あらすじ		
経済的、環境保全的な持続可能、また旅行者や観光事業者にとっての持続可能な取り組みは各地で実施されているが、地域社会、地域住民にとっての持続可能性に結びつく取り組みは、祭り、伝統文化など限定されたものが多い。		
ストーリー		
訪問客を受け入れる地域ニーズ（解決したい教育課題がある）に対応した、豊富温泉の特性を活かした他にはないサステナブルツーリズムの実現を目指す。これらは、「第5次豊富町まちづくり計画」において記載されている「まちづくりの将来像（まちの価値創造、まちを支える人づくり、暮らしの充実）」の具体策の「滞在型観光振興、酪農の継続発展、サロベツ湿原と豊富温泉の活用」と連動している。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくこと	※ 2月開催の第4回豊富ワクワクみらい会議等で検討予定
②課題	・若い人が少なく、人口減少が進んでいる ・中学・高校卒業後に地域を離れ、ほぼ戻らない（地元愛を育むことが必要） ・魅力がある職が少ない（今後は人手不足でより深刻になるかも） ・通過型観光であり、滞在型観光を増やしていくことが急務	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	住民でも、地域の産業やサロベツ湿原の希少性や価値の詳細を知らない人が多い。	
④地域資源	・豊富温泉（湯治によるアトピーの治療） ・サロベツ湿原、壮観な景勝地（大規模草地、利尻富士） ・酪農、乳製品の六次産業化（バター、ジェラート、スコーン他） ・活躍するヒト	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	訪問客を対象としたサステナブルツーリズムの実現	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑥担い手（Who）	地域のアウトドアガイド、観光事業者等（活躍するヒト）	※ 2月開催の第4回豊富ワクワクみらい会議等で検討予定
⑦事業で生じる循環	サステナブルツーリズムは、地域の環境保全につながる取り組みであり、自然環境と共存していく。町内の直接的な経済効果や、ガイドや飲食宿泊業での地域の雇用創出も期待される。	
⑧事業で生じる成果	長期滞在者のような外部との交流を通じて学ぶことにより、子どもたちが地元産業の重要性を知り、地元を誇り、地元愛を育み、地元に残る・就職するという選択の可能性を作れる。	

3 力年状態目標

■ 2026年度末の状態目標

【活動団体】

- ・大学生等が参加するサステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を実装する。
- ・プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを維持・発展させ、地域循環共生圏づくりを継承していく。

【中間支援団体】

- ・サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて支援を継続していく。
- ・大学教育として中間支援者の育成プログラムを運用していく。

■ 2025年度末の状態目標

【活動団体】

- ・サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を検討し、実施を試みる。
- ・プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを発展させ、先進事例の教訓を活かした地域循環共生圏づくりを検討する。

【中間支援団体】

- ・サステイナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて、円滑な遂行を支援する。
- ・大学教育として中間支援者の育成プログラムを検討する。

■ 2024年度末の状態目標と振り返り

【活動団体】

- ・キックオフイベント開催による仲間・チームを作り、地域課題の共有とあり方、活動目標の練り上げを実施
- ・大学生向けの教育体験・滞在を実施し、当該地域の産業・生活・教育の実情を知ってもらい、豊富町の課題点や既存資源の活用法を新たな目線から助言、明らかにして行く事により、地域づくりのキーポイントを発掘し今後の地域づくりに発展させる。

【中間支援団体】

- ・キックオフイベントを開催し、ファシリテーター役として地域課題の洗い出しや解決策の議論、今後の活動計画の共有等の議論を円滑遂行

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

大学が中間支援者として提供できる機能は、1) 大学教員がもつ専門性やノウハウを地域社会に提供すること、2) 地域社会とのコーディネートや橋渡し役を担うこと、3) 大学生（北海学園大学など）を派遣し地域体験へ従事させること、4) 大学生を将来の中間支援者に育成することの4つを考えている。

次年度の活動では、1-3)の機能をより効率的・効果的な成果が出せるように内容を改善させていく。4) については、大学で体系的な教育プログラムを開発するように検討を進める。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

中間支援主体としては、上記の4つの機能を獲得し、大学の特性を活かして地域づくりへ貢献していきたいと考えている。

本事業に関わる専門性はオーダーメイドで対応する必要があるため、関連の先進例の調査によるノウハウを蓄積し、実践的な知見の提供を目指す。また、大学生が、中間支援者を現場で担えるように教育・指導し、未来の中間支援者を養成していく人材育成プログラム開発を目指す。

この事業を通じて中間支援機能を獲得し、豊富町で研究と大学教育の実践の場として継続的にサポートしていく。そして、地域資源を活かした地域課題の解決、人をつなぐ役割を他の自治体でも実施し、地域循環共生圏づくりに貢献していく。

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

活動団体の豊富町観光協会は、適切な支援を得られると、異分野の教育・子育ての要素を絡めて滞在型観光の活動を拡げていく可能性を有している。今年度も「ワクワクとよとみ未来会議」や「大学生の地域インターンシップ」を継続し、ワークショップや打合せなどで、住民や関係者と意見交換・交流して、地域で解決すべき課題や要望を抽出し、企画立案を支援していく。1年後には、地域活動への参画や交流等を行う「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」の事業を具体化させることを目指す。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	本事業に関わる担い手は町内に「点の状態」として多数存在している。課題は「面の状態」に拡張するための仲間づくりであり、まずは率直な意見交換の場を設定し、プラットフォームを形成していくことが必要である。	昨年度は、「ワクワクとよとみ未来会議」を4回開催し、今年度も継続していく。大学教員などが学習会やワークショップで必要な知識や情報を専門的な知見を提供する。また、「未来会議」では、参加者間の意見交換を円滑に進めるために、ファシリテートを行う。
②	地域には大学がないため、日常で大学生がいない。地域社会が、若者の発想や感性、よそ者の意見を取り入れることで、新たな刺激を生む可能性がある。とくに、大学生が交流することで、子どもたちの視野が広がり、物事の発想が豊かになる可能性がある。	昨年度と同様に、夏休みの時期に大学生の「地域インターンシップ」を実施していく。豊富町の主産業・生活・教育について体験し、若者の感性を活かした多種多様な観点からアイデアを生み出し、地域づくりへ活かしていく。
③	地域活動への参画や交流等を行う「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」の事業のタネを具体化し、ローカルSDGs事業を創出する必要がある。	昨年度の「ワクワクとよとみ未来会議」で出されたアイデアを活かして、5/17に「テントサウナイベント」を開催する。地域の主体と大学生が協働することで、新たな事業のタネを見つけ、事業の創出につなげていく。

活動・支援スケジュール

■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】			◆第6回未来会議の開催				◆第7回未来会議の開催				◆第8回未来会議の開催	
	コアメンバー打合せを開催（オンライン）											
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】		◆第5回未来会議イベント（テントサウナ）の開催（5/17、豊富）			◆大学生の地域インターンシップ受入（8-9月）							
					若者による豊富町でのインターンシップ活動							
中間支援主体の支援・取組計画		◆イベントでのファシリテーター役と講師の提供 ◆関係先との調整、協力依頼		◆派遣大学生への面接と事前説明				◆地域づくりの視察				
	コアメンバー打合せの同伴支援											

備考（補足説明など必要な場合は記載）